

同行二人：北辰会と私

山田信也（旧教員）

はじめに

私が北野高校定時制の教員になったのは 1964（昭和 39）年 4 月でした。全日制におられた恩師が定時制に英語科の教員に欠員ができたので来ないか、と勧められて定時制に来ました。しかし、再び他校から呼ばれて、わずか 9 年半後の 1973（昭和 47）年 7 月に退職、転勤しました。今振り返れば、北野高校定時制の良いところ取りの食い逃げでした。

毎日が初体験と驚きの楽しい勤務

私が北野高校定時制に勤務すると同時に担任したクラスは 27 期の男子 35 名、女子 17 名計 52 名でした。昼間に働いて夜には定時制高校に通ってまで勉強する若者がこんなに多いことに驚きました。誰もが学びたい時に学べる良き時代でした。

私の担任クラスの中には 26 歳の私より年上の生徒も数人おられました。皆さん昼間の勤務疲れと闘いながら勉学に励み、放課後はクラブ活動にも参加されました。私もソフトボール部の顧問をしていて、夜道を十三駅までおしゃべりしながら生徒たちと一緒に帰るのが喜びでしたし、夏には生徒の実家がある淡路島で合宿し、伝馬船の操り方を習いました。担任クラスの春と秋の遠足も生徒以上に楽しみでした。しかし、日曜日でも仕事があって、楽しみにしていた遠足に参加できない生徒が多くいることが大変残念でした。担任クラスの卒業旅行では那智勝浦の宿で朝方までセブンブリッジをして、初心者の方も強者どもに勝てるほどに上達しました。

私の驚きは職員室前にバケツ一つ置いた喫煙場でした。そこは給食時に多くの生徒が集まる場所でしたが、よく見れば学年もクラスも超えた生徒間のコミュニケーションの場でもありました。給食のパンは生徒の空腹感を少しは和らげたようですし、独身の私にも夜食の足しになるうれしいボーナスでした。

毎日が初体験の連続で驚きと楽しみの勤務でした。

多くの卒業生と交流

卒業生も手紙やメールなどで自分たちの活動や行事、相談や食事会などを私に連絡してくれましたので、卒業生にいろいろな形でお会いする機会は毎年多くありました。しかし、真面目で多忙な仕事人間たちが公式のクラス会や同期会を計画し開催ことは時間的に容易ではありません。26 期の卒業時担任したクラスの場合、第 1 回クラス会を開いたのは卒業後 20 年目の 1987 年です。第 1 回同期会を開いたのは更に 12 年経過した 1999 年です。このような時間的空白は人間関係をも空白化する傾向があります。しかし、北辰会を暖かい絆で結び、家族的雰囲気でも包み込んでいるのは、全国の卒業生たちが自発的に作り出したグループや同好会などの活動です。

同好会への参加

同好会は仕事や健康上のため参加者は必ずしも多くはありませんが、卒業クラスや年齢に関係なく、いわばバリアフリーの世界だからこそ、いろいろな活動が長続きして、北辰会を底辺から支えてきました。

北辰ファミリーでは行事に参加する人は毎回多少変わりますが、2002 年から 2016 年までにハイキングや旅行、映画勉強会などを 32 回持ちました。海外旅行はサンキュッパ（3 万 9800 円）を合言葉に中国、韓国、台湾、香港など 6 回行きました。参加者の 7 割は女性で、その中には「夫が山田先生も一緒なら参加してもよいと言っていますから」とかナントカ言って、私を強引に？参加させてくれました。よろよろ

の私がガードマン、案内人、通訳として少しでも役に立ったでしょうか。お山では富士山登頂、雨中での大山登頂、近辺の山々では比良山、大文字、生駒、六甲など8山を征服しました。

途上人KITANOでは2010年以後、春と秋は金剛山の植物観察、冬は樹氷鑑賞で7回、山頂での持ち寄り昼食会と下山後の王将での真剣な？反省会が恒例です。乗鞍登頂、剣山、忘年会などもありました。北辰会は活動に一度参加すると友達ができてリピータになり、次回につながっています。

定年退職後、出身地に戻る卒業生も多数おられます。九州博多に帰った卒業生から「一度遊びに来て下さい」とのお言葉に甘えて6名で訪ねました。彼は鉄道記念碑がある公園に案内して、「ここに昔の博多駅があって、ぼくらは45年前みんなに見送られて、ここから集団就職で大阪に行きました」と感慨深げに話してくれましたが、私は彼ら若者の労働力が、すなわち定時制高校が今日の日本の発展と平和を築いたのだと初めて気付きました。

結びに

2003年9月22日の毎日新聞が十三駅前では閉課程反対の署名活動をしている私たちの写真付きで「チラシ約200枚を配り、署名活動をした」と報じました。2009(平成21)年3月、残念ながら北野高校定時制課程を閉じました。これは北辰会にとっても、また国民の権利として学びの機会を求めるすべての人たちにとって大きな悲劇でした。しかし閉課程に負けず、北野高校定時制の卒業生であることを誇りに思う卒業生の一人ひとりの心の奥底に、北辰会はいつまでも生き続けると確信します。

私が北野高校定時制に着任した1964年以来今日までの50数年間、北辰会は私にとって単なる回想録ではなく、共に過ごした生活者であって、妻に次ぐ気心の合った最高の友人として、北辰会と共に同行二人で前進してきました。

私に元気をくれた北辰会に深く感謝しています。

ありがとうございました。

2016年9月記

*事務局より

山田信也先生より、2018年発行予定の「北宸V」～ほたるに雪に～の掲載原稿が届きました。先生にお願いし、先行して「北辰会HP」と来年発行の北辰会報23号へ掲載段取りの許可を頂きました。先生は在校時にも卒業後も多くの生徒に慕われていたのだなあ～と改めて認識しました。